

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【公表番号】特表2008-512108(P2008-512108A)

【公表日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2007-530803(P2007-530803)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	14/31	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	31/7105	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	14/31	
C 1 2 Q	1/02	
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	39/395	R
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	31/7105	
A 6 1 P	31/04	
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/15	Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月1日(2008.9.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

薬学的に許容可能な担体と、

(a) SEQ ID NO: 4、SEQ ID NO: 7、SEQ ID NO: 10、SEQ ID NO: 13、SEQ ID NO: 16  
 、SEQ ID NO: 19、SEQ ID NO: 22、SEQ ID NO: 25、又は SEQ ID NO: 28 に対する抗体、  
 (b) SEQ ID NO:  
 4、SEQ ID NO: 7、SEQ ID NO: 10、SEQ ID NO: 13、SEQ ID NO: 16、SEQ ID NO: 19、SEQ  
 ID NO: 22、SEQ ID NO: 25、又は SEQ ID NO: 28のーフラグメントであるポリペプチド  
 であって、但し前記フラグメントは完全長たんぱく質の生物活性のモジュレータとして機

能的である、ポリペプチド、

(c) SEQ ID NO: 2、SEQ ID NO: 5、SEQ ID NO: 8、SEQ ID NO: 11、SEQ ID NO: 14、SEQ ID NO: 17、SEQ ID NO: 20、SEQ ID NO: 23、又は SEQ ID NO: 26に対してアンチセンスである核酸、又は

(d) SEQ ID NO: 2、SEQ ID NO: 5、SEQ ID NO: 8、SEQ ID NO: 11、SEQ ID NO: 14、SEQ ID NO: 17、SEQ ID NO: 20、SEQ ID NO: 23、又は SEQ ID NO: 26の核酸を含むsiRNA分子

とを含む医薬組成物。

【請求項2】

S. オウレウスの感染に起因する、又は、S. オウレウスの感染に寄与する疾患又は状態を治療又は防止するための医薬品の製造における、請求項1に記載の医薬組成物の使用。

【請求項3】

Sbnに結合してシデロフォア・スタフィロバクチンの生合成を阻害する作用物質を同定する方法であって、

(i) Sbnポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用が作用物質の非存在下でも可能な条件下で、Sbnポリペプチドを適した相互作用性分子に作用物質の存在下で接触させるステップと、

(ii) Sbnポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用のレベルを判定するステップであって、作用物質の非存在下に比較したときの、作用物質の存在下におけるSbnポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用のレベルが違うことは、作用物質が、Sbnポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用を阻害するものであることの指標である、ステップと

を含み、

但し、Sbnポリペプチドがスタフィロコッカス・オウレウス SbnA (SEQ ID NO: 4)、SbnB (SEQ ID NO: 7)、SbnC (SEQ ID NO: 10)、SbnD (SEQ ID NO: 13)、SbnE (SEQ ID NO: 16)、SbnF (SEQ ID NO: 19)、SbnG (SEQ ID NO: 22)、SbnH (SEQ ID NO: 25) 及び SbnI (SEQ ID NO: 28)から成る群より選択される、方法。

【請求項4】

シデロフォア・スタフィロバクチンの生合成を阻害する作用物質を同定する方法であって、

(i) Sbnポリペプチドと基質との間の相互作用が作用物質の非存在下でも可能な条件下で、Sbnポリペプチドを基質に作用物質の存在下で接触させるステップと、

(ii) Sbnポリペプチドの生化学的活性を判定するステップであって、作用物質の非存在下に比較したときの、作用物質の存在下におけるSbnポリペプチドの活性レベルの低下は、作用物質がSbnポリペプチドを阻害することの指標である、ステップと

を含み、

但し、Sbnポリペプチドがスタフィロコッカス・オウレウス SbnA (SEQ ID NO: 4)、SbnB (SEQ ID NO: 7)、SbnC (SEQ ID NO: 10)、SbnD (SEQ ID NO: 13)、SbnE (SEQ ID NO: 16)、SbnF (SEQ ID NO: 19)、SbnG (SEQ ID NO: 22)、SbnH (SEQ ID NO: 25) 及び SbnI (SEQ ID NO: 28)から成る群より選択される、方法。

【請求項5】

基質がL-セリン又はO-アセチル-L-セリンである、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

スタフィロコッカス・オウレウスにおけるSbnA (SEQ ID NO: 4)、SbnB (SEQ ID NO: 7)、SbnC (SEQ ID NO: 10)、SbnD (SEQ ID NO: 13)、SbnE (SEQ ID NO: 16)、SbnF (SEQ ID NO: 19)、SbnG (SEQ ID NO: 22)、SbnH (SEQ ID NO: 25) 及び SbnI (SEQ ID NO: 28)から成る群より選択されるポリペプチドの発現を阻害する作用物質を同定する方法であって、

(i) 前記作用物質の存在下又は非存在下で野生型スタフィロコッカス・オウレウス株を

培養するステップと；

( i i ) Sbnポリペプチドの発現を比較するステップであって、前記作用物質で処置された細胞でSbnポリペプチドの発現がより多く低下していることは、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて前記作用物質がSbnポリペプチドの発現を阻害することの指標である、ステップと  
を含む、方法。

【請求項 7】

スタフィロコッカス・アウレウスにおける sbnA (SEQ ID NO: 2)、sbnB (SEQ ID NO: 5)、sbnC (SEQ ID NO: 8)、sbnD (SEQ ID NO: 11)、sbnE (SEQ ID NO: 14)、sbnF (SEQ ID NO: 17)、sbnG (SEQ ID NO: 20)、sbnH (SEQ ID NO: 23) 及び sbnI (SEQ ID NO:

26) 核酸から成る群より選択される核酸の発現を阻害する作用物質を同定する方法であつて、

( i ) 前記作用物質の存在下又は非存在下で野生型スタフィロコッカス・アウレウス株を培養するステップと；

( i i ) sbn核酸の発現を比較するステップであって、前記作用物質で処置された細胞でsbn核酸の発現がより多く低下していることは、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて前記作用物質がsbn核酸の発現を阻害することの指標である、ステップと  
を含む、方法。